

# モード Mode は語る

中野 香織

自然派化粧品のSHIROというブランドがある。2009年にブランドを創始し、現在会長を務める今井浩恵さんは、会社の利益の一部を運用して、北海道砂川市で「みんなのすながわプロジェクト」を立ち上げた。行政をはじめ、多くの組織や人を巻き込んだの街づくりである。

「世界中の人にSHIROの聖地である砂川に来てもらいたい。聖地を見ることがますますファンになってもらえるような街づくりを目指したい」と北海道出身の今井さん。砂川から札幌、そして北海道全体へと輪



砂川市立江陽小学校跡地（北海道砂川市）には公園併設型のSHIROの工場が建てられる

が広がる未来を構想する。

街づくりに取り組むきっかけの1つは、税金の使われ方に対する疑問だ。幼い頃から、公園や舗装された道路があるのは、先祖の努力のたま

## 化粧品に託される夢

### 街づくりを通じ理念具現

ものだと思ってきた。会社で税金を納めるようになり、社会をよくするために使われると思っていたが現実はいっこうに変わらない。業を煮やし、自然の恵みから得た利益は土地に還そうと決め、率先して動き始めた。「民間がもっと自分ごととして社会をよくするための事業を展開していくべき。ノウハウもあるのだから、街づくりでも模範を示せる」と。

企業がある程度、利益を上げると、美術館を建てたりアートを買ったりすることがもてはやされた時代があった。「誰もがアートを望んでいる

わけではない」と言う今井さんは、社会の抱える課題に取り組むほうが大変だけれど面白いし、結果として企業価値も上がると説く。

SHIROの20代の顧客層の購買判断基準は、「かわいい」ではない。見た目や機能が合格点にあるのは当たり前で、それ以前に「これを買って、地球はよくなるの」と逆に問われることもあるという。神秘的な理想を見せて顧客の憧れをかきたてるというやり方は時代遅れに見え始めている。「失敗も含めて、本音の部分を見せていく方がはるかにワクワクする」と今井さんは分析する。

化粧品に託される夢は、個人の美を超え、社会全体の幸福になり始めている。